5 早大生のフトコロ事情について

アルバイトの目的

ゆとりのアルバイト？困窮のアルバイト？

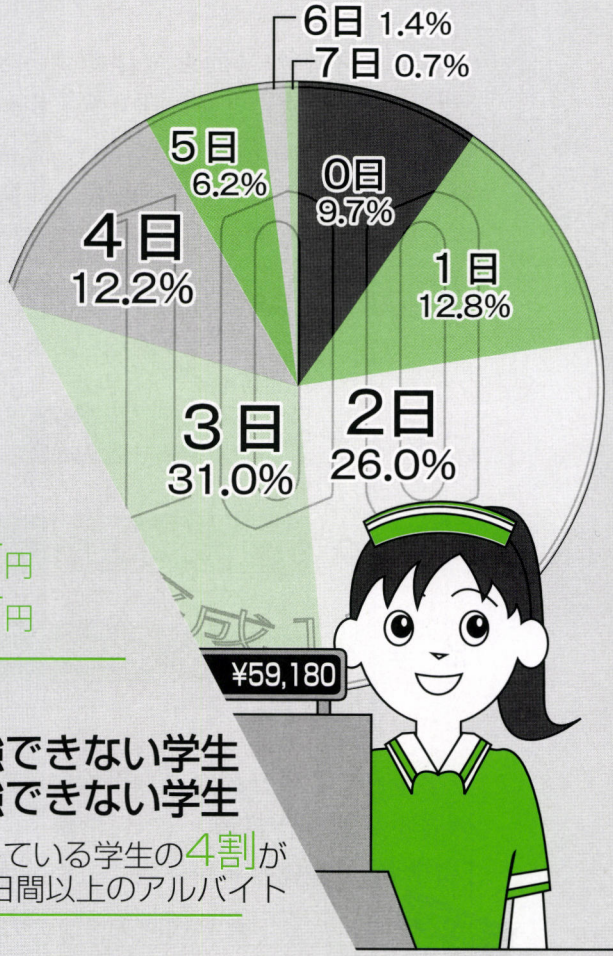
どの学生も「生活維持」がトップ
2位は　一般学生「身の回り費（衣類・美容等）」
社会人学生と留学生「学費」

アルバイトの日数と時間

アルバイトは高学年の学生ほど好き

週平均アルバイト日数が「0日」　1年生：22.6%
4年生：　7.3%

Q 週平均のアルバイト日数



アルバイト収入

高学年ほど高くなる

アルバイトの月平均収入　1年生：約4万円
4年生：約7万円

アルバイトと勉強

アルバイトをしないと勉強できない学生
アルバイトをするから勉強できない学生

アルバイトが勉強の妨げになると感じている学生の4割が
週4日間以上のアルバイト

仕送り・小遣い

仕送り・小遣いの特徴は？

月平均4万5千円。別居でも仕送りなしが2割

月平均収入

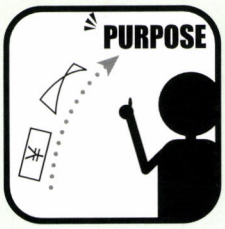
多いのは、文系の高学年
理系の学生は質素な生活

1年生：約7万円、4年生：約12万円
文系：約11万円、　理系：約8万5千円

勉　学　費

最も勉強するのは留学生？

一般学生の勉学費は社会人学生や留学生の半額



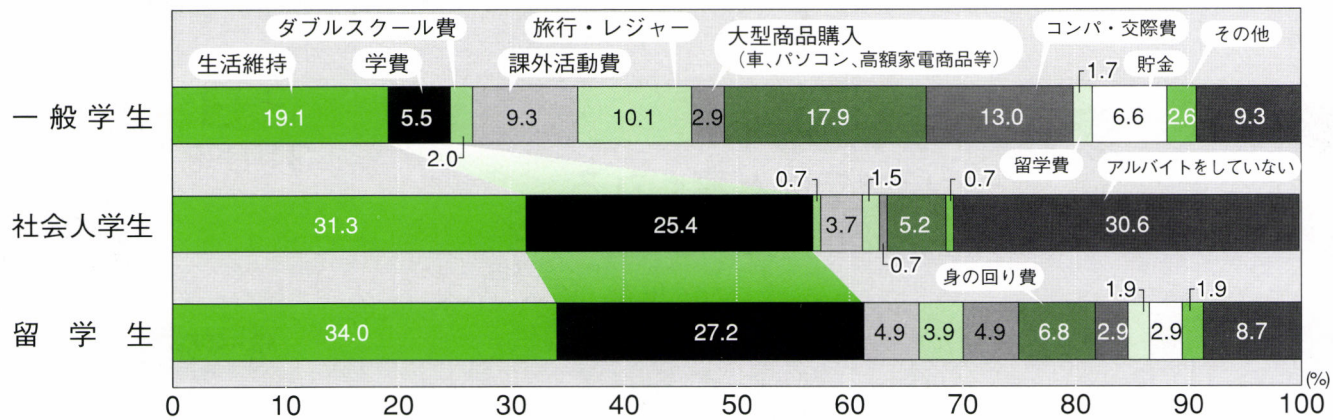
ゆとりのアルバイト？ 困窮のアルバイト？

POINT

どの学生も「生活維持」がトップ
2位は　一般学生　「身の回り費（衣類・美容等）」
　　社会人学生と留学生　「学費」

アルバイトの目的を全体で見ると、第1位が「生活維持」、次に「身の回り費」が続きます。一般学生では、「生活維持」と「学費」を選択したのは約4分の1、残りは「課外活動費」、「旅行・レジャー」、「身の回り費」、「コンパ・交際費」など生活をエンジョイするのに使っています。ところが、社会人学生や留学生は違います。彼らの多くは「生活維持」や「学費」を稼ぐためのアルバイト。この傾向は、修士課程や博士課程の大学院学生にも見られました。

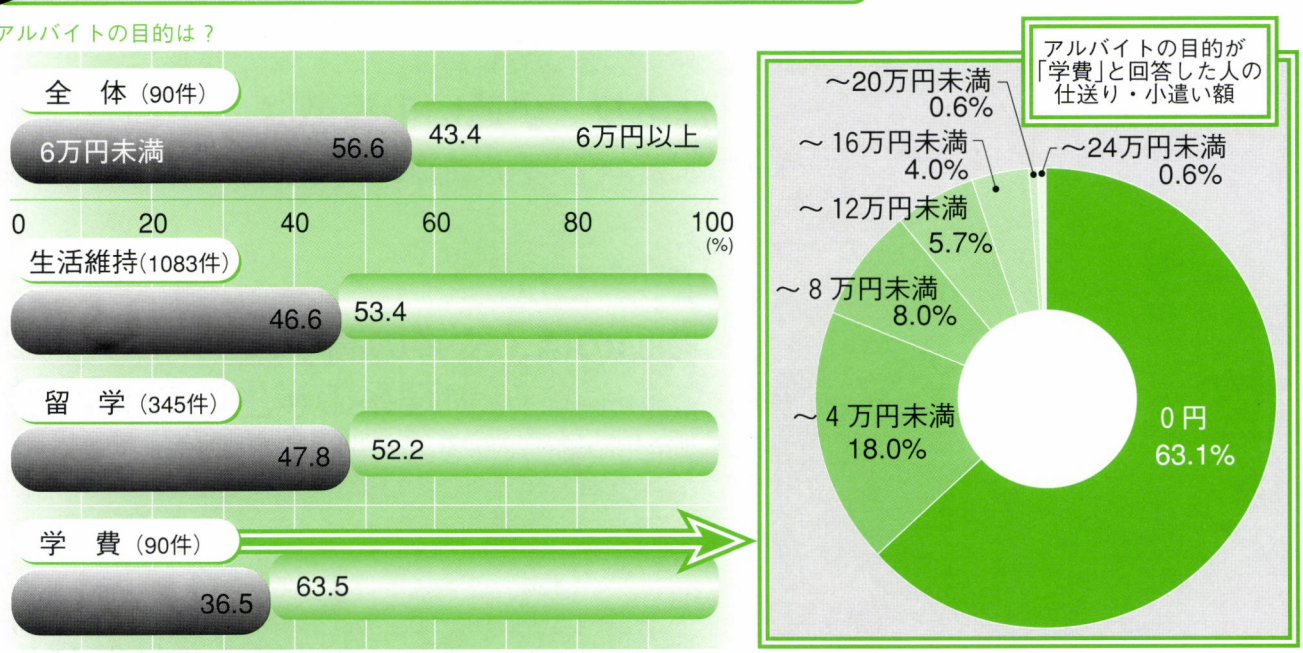
アルバイトの目的は？（学生種類別）［複数選択可］



アルバイトの目的別に月平均収入が6万円以上の者を見ると、目的として「学費」、「生活維持」、「留学費」を挙げた者が多いことが分かります。とりわけ、「学費」を目的に挙げた場合には、27.0%の学生が月平均12万円以上を稼いでいました。また彼らの3人に2人は仕送り・小遣いが全くありません。

一部抜粋

アルバイト月平均収入／アルバイトの目的は？［複数選択可］

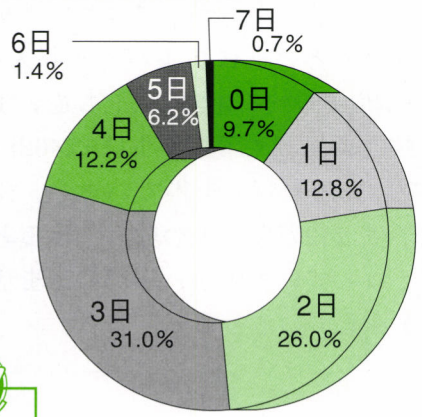


アルバイトは高学年の学生ほど好き

POINT 週平均アルバイト日数が「0日」　1年生：**22.6%**　4年生：**7.3%**

全体では週2日以内が約半数を占め、「2日」と「3日」の学生が最も多いようです。学年別では、学年が上がるにつれて日数が増える傾向がはっきりしています。大学への慣れ、履修授業数の減少、社会生活への志向の強まりなどが経済活動を動機づけるのでしょう。

週平均アルバイト日数



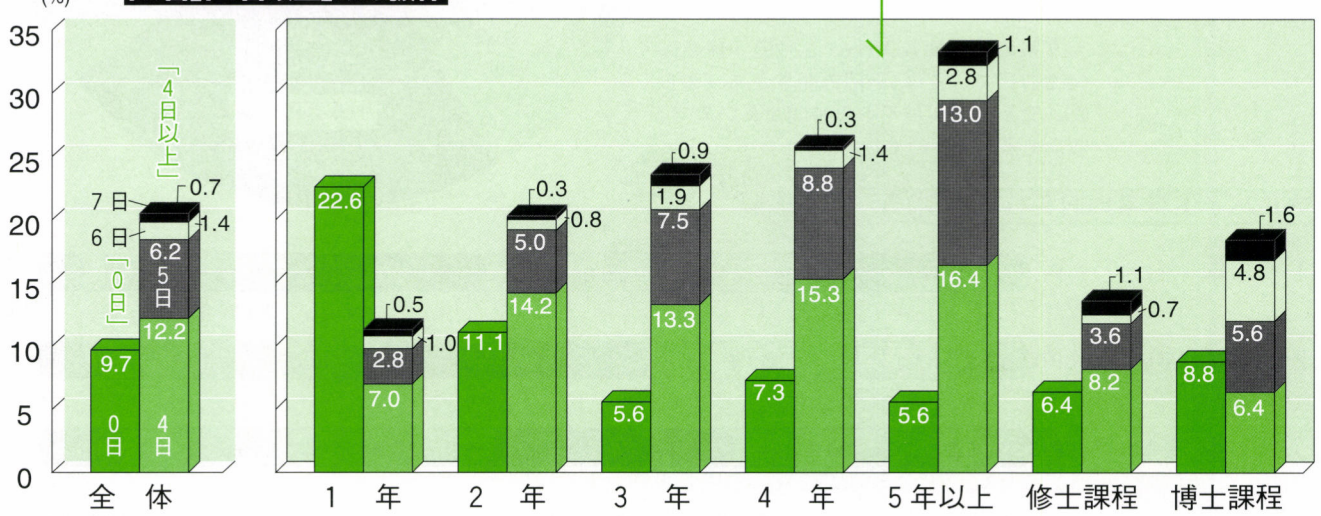
文系と理系を比べると、文系学生のアルバイト日数が多い傾向がありました。文系の科目の方が科目履修に時間的なゆとりがあるためだと考えられます。

+α

一部抜粋

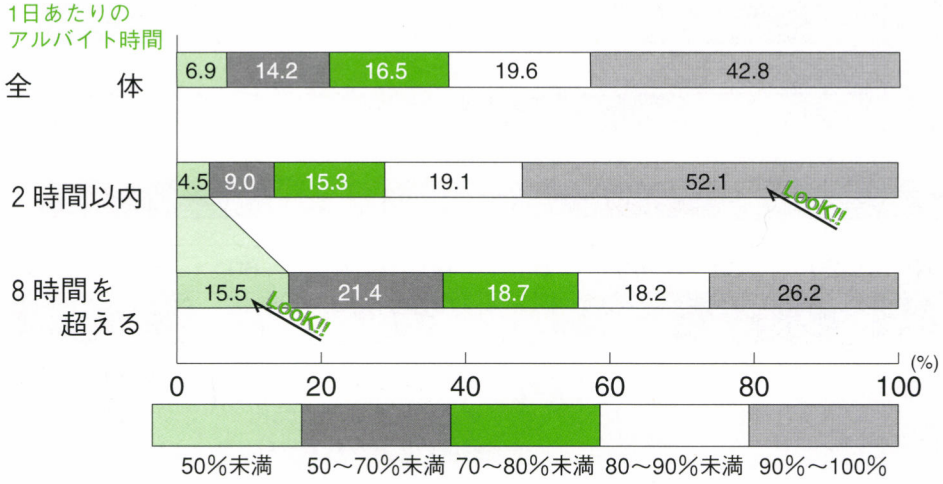
週平均アルバイト日数（学年別）

「0日」「4日以上」のみ抜粋



一部抜粋

あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？／1日あたりのアルバイト時間



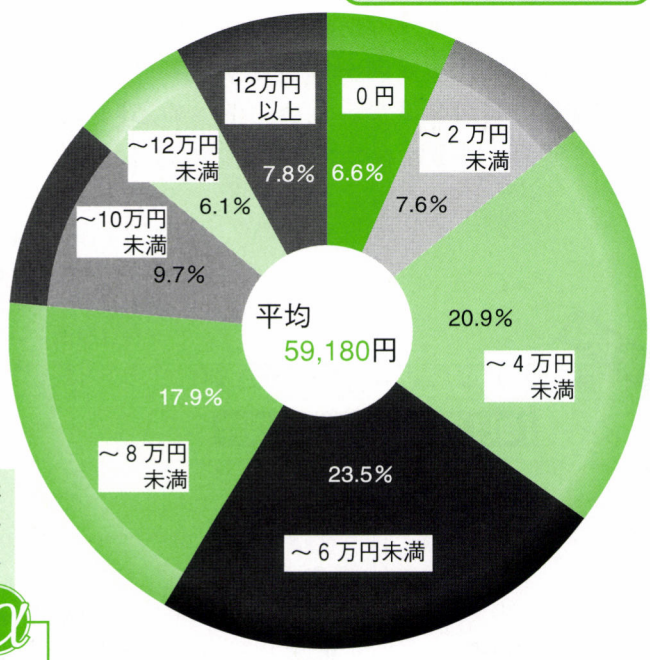
1日あたりのアルバイトが2時間以内と8時間を超える学生とでは、授業の平均出席率に明確な違いがあります。出席率が50%未満の学生が後者では2倍をはるかに超えることが分かります。アルバイトには社会を実体験できるメリットがあるとはいえ、授業時間を削るのは本末転倒だと思います。

高学年ほど高くなる アルバイト収入

POINT アルバイトの月平均収入　1年生：約**4万**円
4年生：約**7万**円

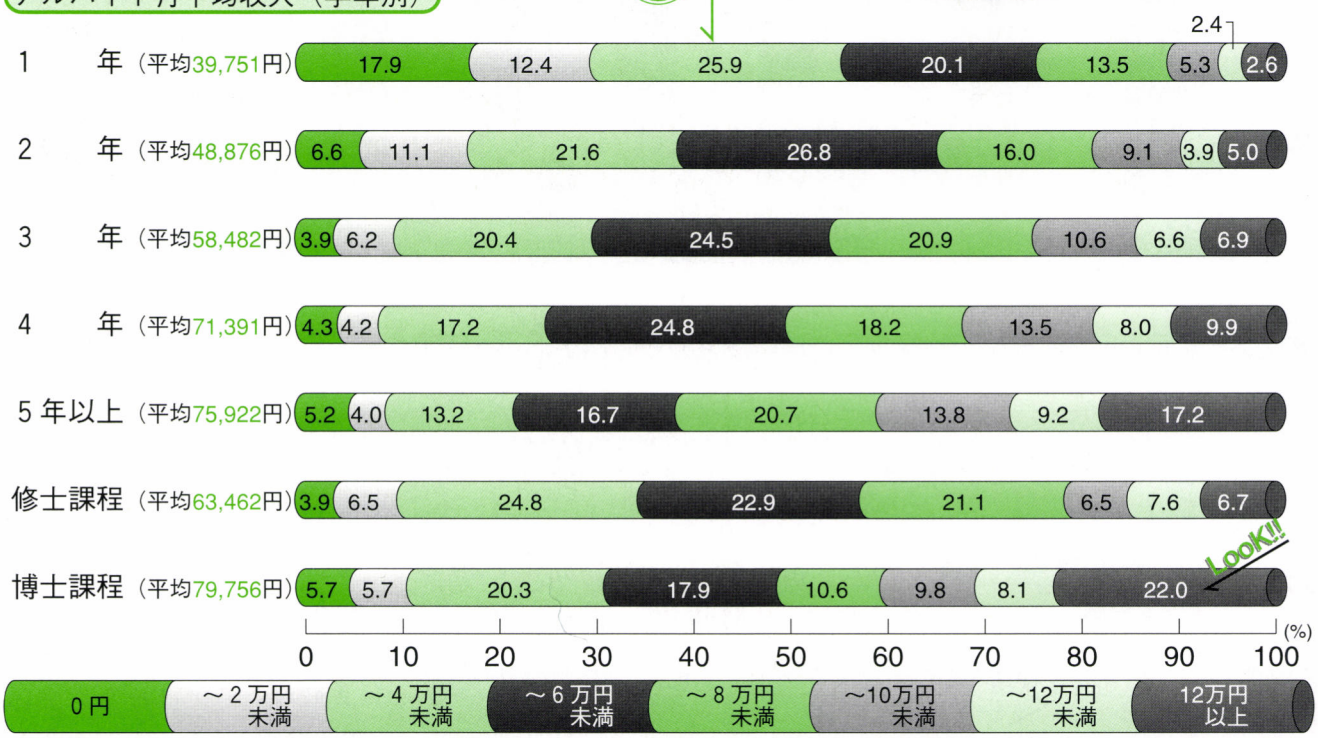
全体ではアルバイトの月平均収入は59,180円になります。学年が上がるにつれてアルバイト日数が増加するとともにアルバイト収入も増え、1年生と4年生では実に3万円以上も違います。ちなみに、修士課程の大学院学生は63,462円、博士課程では79,756円の収入を得ています。博士課程の大学院学生は12万円以上の収入を得る者の比率が一番高くなっていますが、専門知識を活かしたアルバイトをしていると考えられます。

アルバイト月平均収入



文系の月平均収入は61,221円、理系は52,067円で、ほぼ1万円の開きがありました。文系はアルバイトの時間が長いので、収入も多くなるのでしょう。

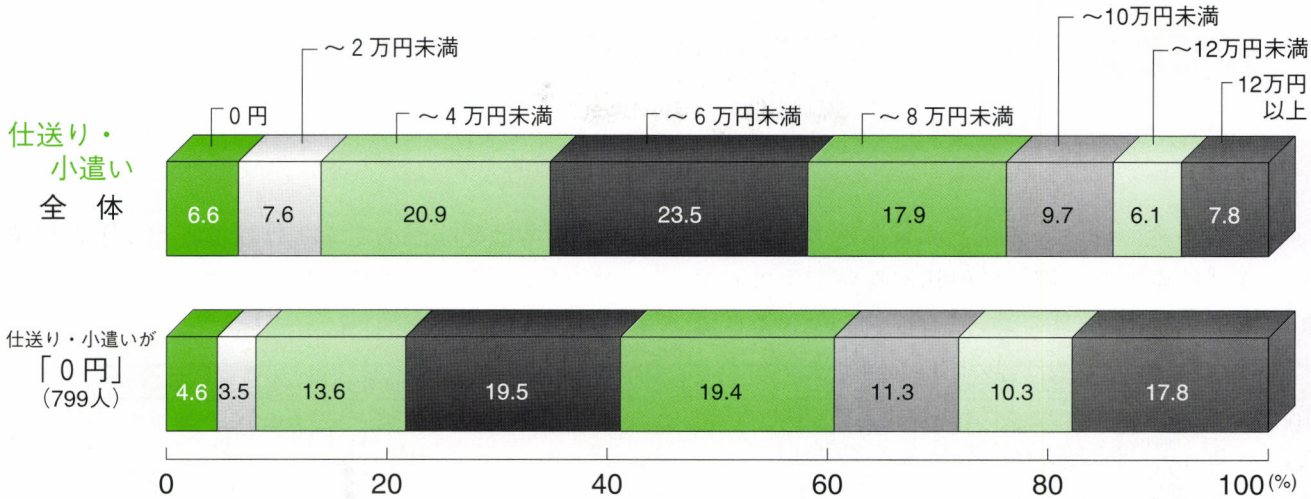
アルバイト月平均収入（学年別）



自宅外学生の月平均収入は64,711円、自宅学生の場合は55,185円で、ここでも約1万円の違いが見られました。

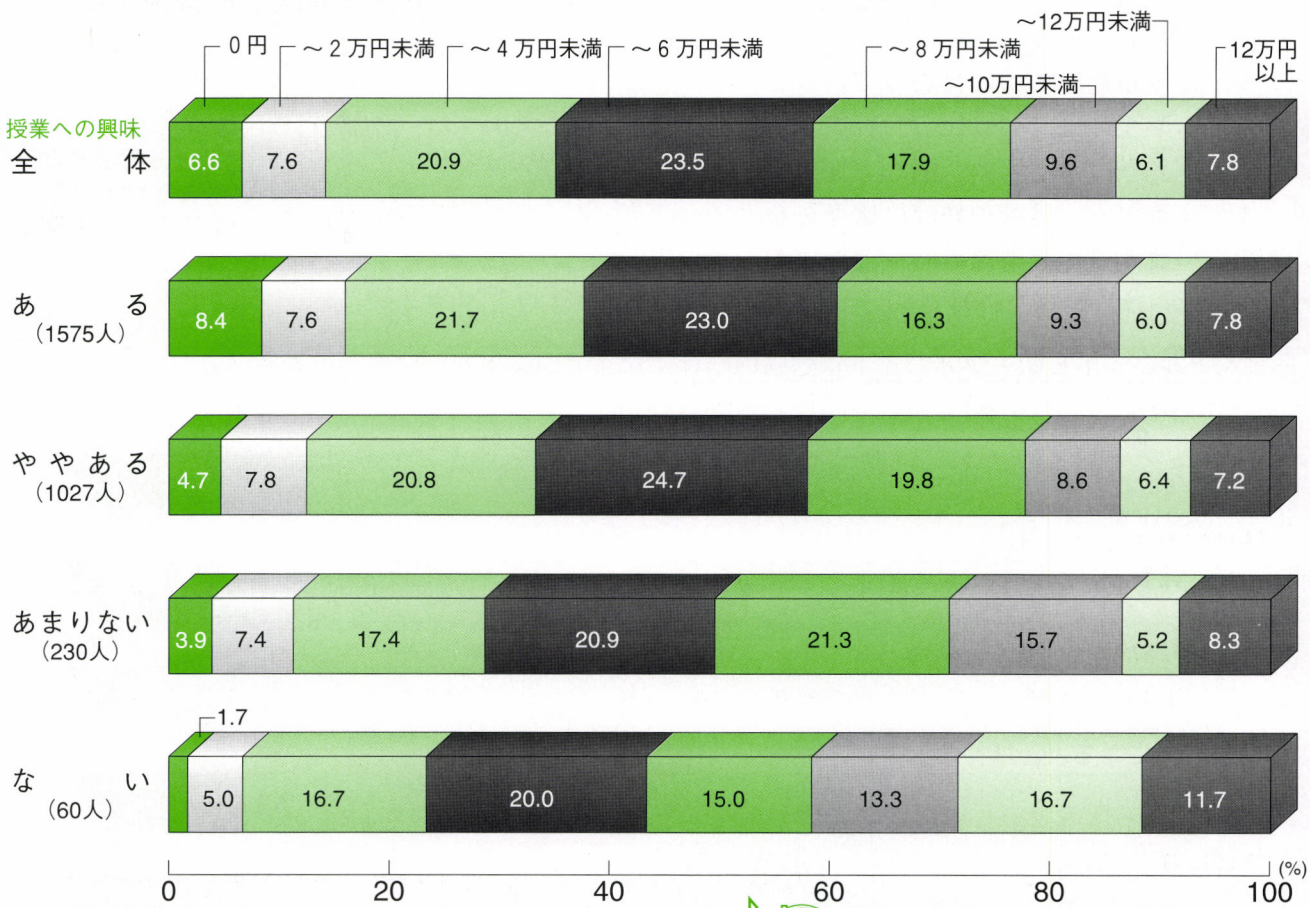
仕送り・小遣いがない学生は3割弱いますが、彼らは当然自分で収入を得る必要性に迫られます。彼らの中には月に12万円以上得ている者が17.8%います。

一部抜粋 アルバイト月平均収入／月平均仕送り・小遣い 「全体」と仕送り・小遣いが「0円」のみ抜粋



大学の授業に興味がないと答えた学生も、アルバイト時間が長くなり、アルバイト収入が多くなる傾向にあります。大学生活の自由な時間は学生の自主的な管理に任せなければなりませんが、一人ひとりの学生が有意義な学生生活を送ることを願います。

アルバイト月平均収入／大学の授業に興味はありますか？



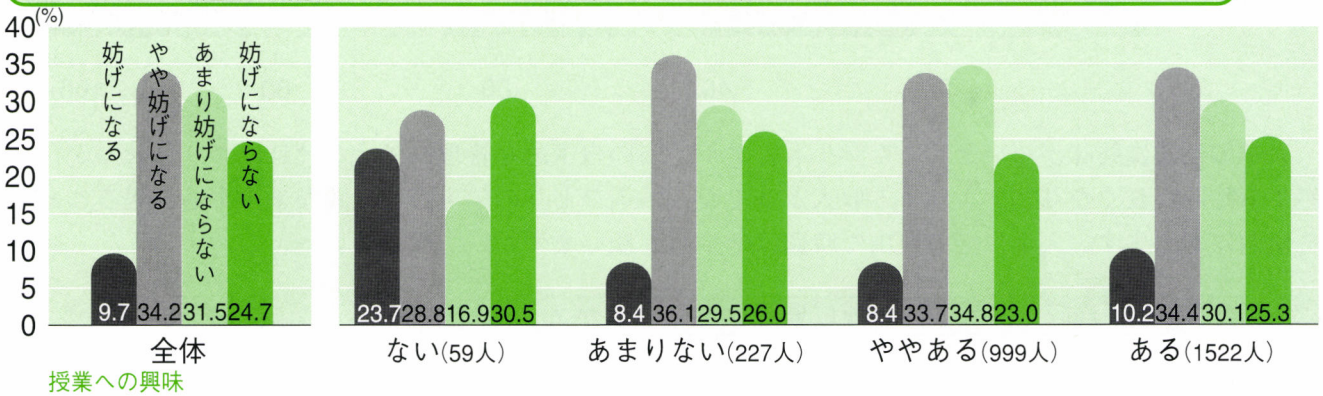
+α 大学での授業や勉強は将来自分の進路に役に立たないと答えた学生も、アルバイト収入が多い傾向が見られました。

アルバイトをしないと勉強できない学生
アルバイトをするから勉強できない学生

POINT アルバイトが勉強の妨げになると感じている学生の**4割**が週4日間以上のアルバイト

大学の授業に対する興味とアルバイトの授業妨害の程度を見ると、授業に興味がない学生ほどアルバイトによる授業の妨げを感じているようです。授業に興味がある学生は、アルバイトが授業の妨げにならないように自己管理できる学生でもあるのでしょう。

アルバイトは勉強の妨げになっていますか（いましたか）？／大学の授業に興味がありますか

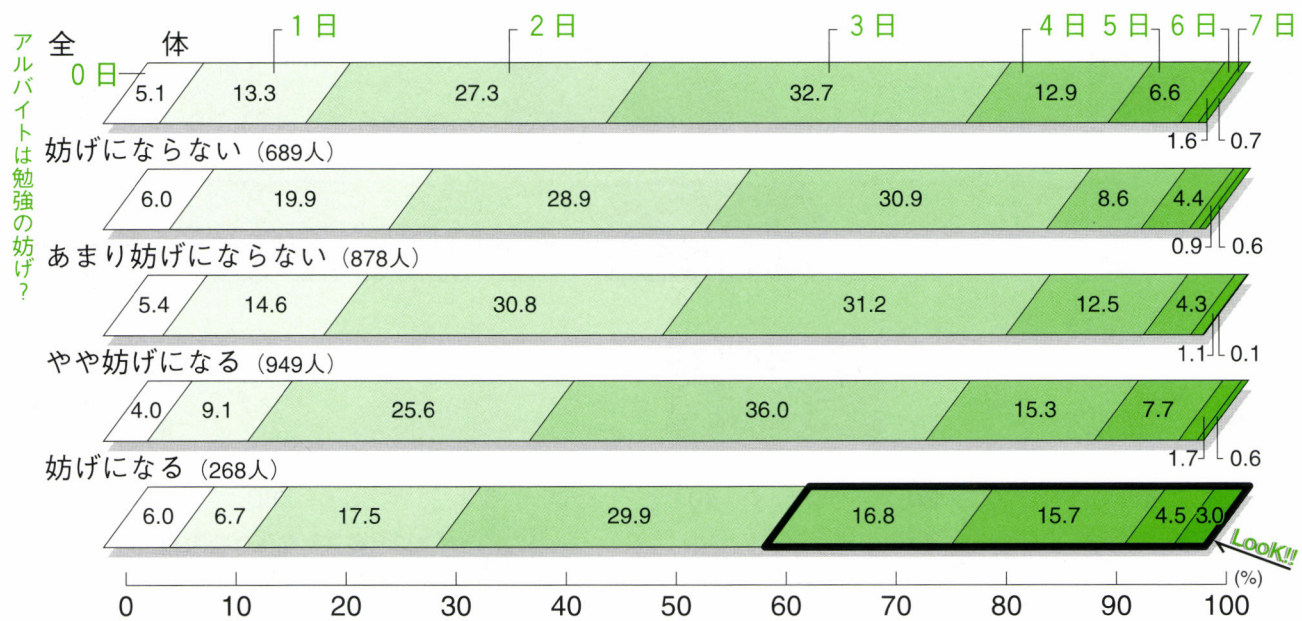


アルバイトが勉強の妨げになっていると感じている学生のほぼ4割は、週4日間以上のアルバイトをしています。週に4日間以上のアルバイトでも、勉強の妨げにはならない学生はいますが、長時間のハードなアルバイトにはやはり注意が必要です。

はみだし情報

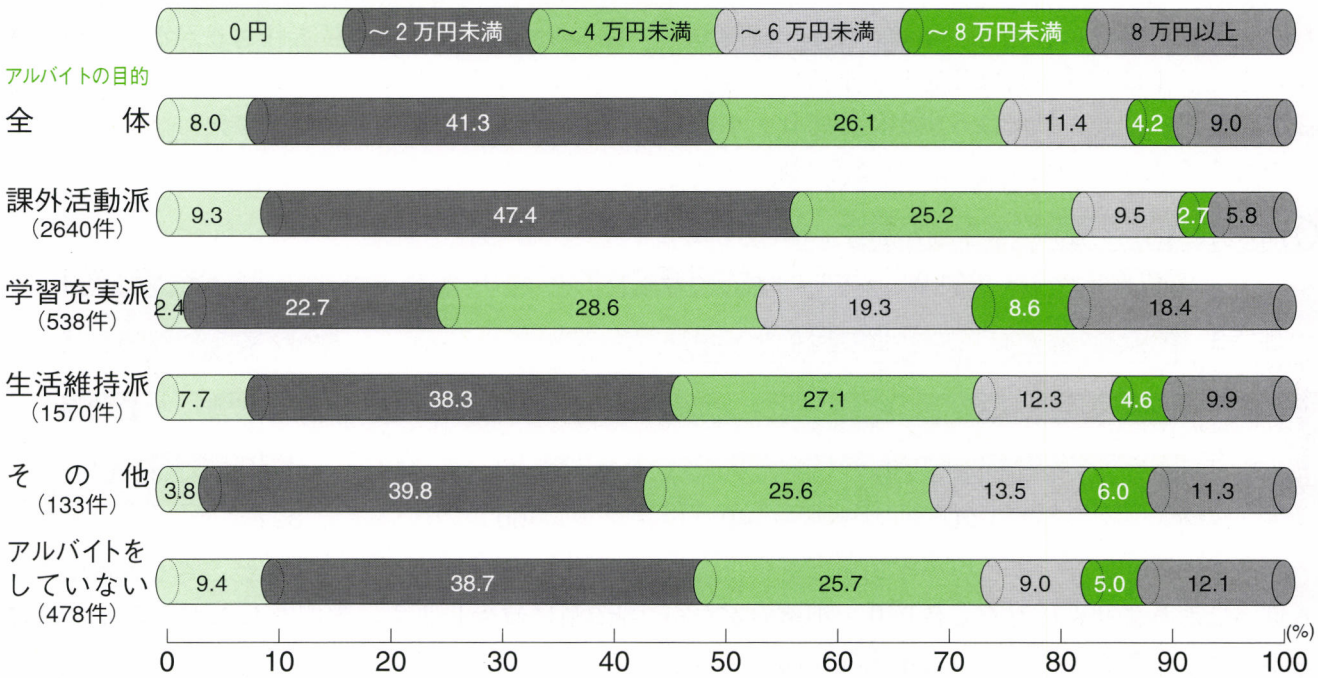
アルバイトが勉強を妨げていると感じる学生の約3分の2は、アルバイトで月に6万円以上の収入を得ていました。12万円以上という人も4人に1人近くいましたから驚きです。勉強が学生の本分であることを忘れないでアルバイトをしてほしいと思います。

週平均アルバイト日数／アルバイトは勉強の妨げになっていますか（いましたか）？



アルバイトの目的と勉学費との関連を見てみましょう。ここでは3つのタイプに分かれます。「課外活動派」、「学習充実派」そして「生活維持派」です。アルバイトの目的に「コンパ・交際費」や「旅行・レジャー費」、「身の回り費」などを選んだ「課外活動派」がかける勉強費は2万円未満が過半数を占めますが、「学費」や「ダブルスクール費」、「留学費」を選んだ「学習充実派」では2万円未満は25.1%にしかなりません。「生活維持派」は勉学費にはお金をかけにくいはずですが、「課外活動派」よりは勉学費にお金をかけています。学習意欲に富む学生や苦学生に対する経済的支援が必要であることが分かります。本学は奨学金制度の充実を図っていますが、今後もその努力が必要です。

月平均勉学費／アルバイトの目的は？［複数選択可］



コラム　早大生のフトコロ事情。私大平均と比べるとどのくらい？

㈳私立大学連盟がまとめた全国122大学の私大生の実態と比べると、仕送り・小遣いのない学生が、私大平均は21.1%であるのに対し、本学学生は28.1%と、本学の方が仕送り・小遣いに頼らず大学生活を送っている学生が多いことが分かります。平均仕送り・小遣い額も、私大平均が52,800円であるのに対し、本学は44,921円と、約8,000円の差があります。一方、仕送り・小遣い額が10万円を超える学生の比率は、本学学生のほうが高くなっています。独立派の学生が多い一方で、経済的に恵まれている学生も比較的多いことが、本学の特徴と言えそうです。

アルバイト収入については、私大平均が53,700円であるのに対し、本学学生は59,180円と、本学学生の方が高くなっています。

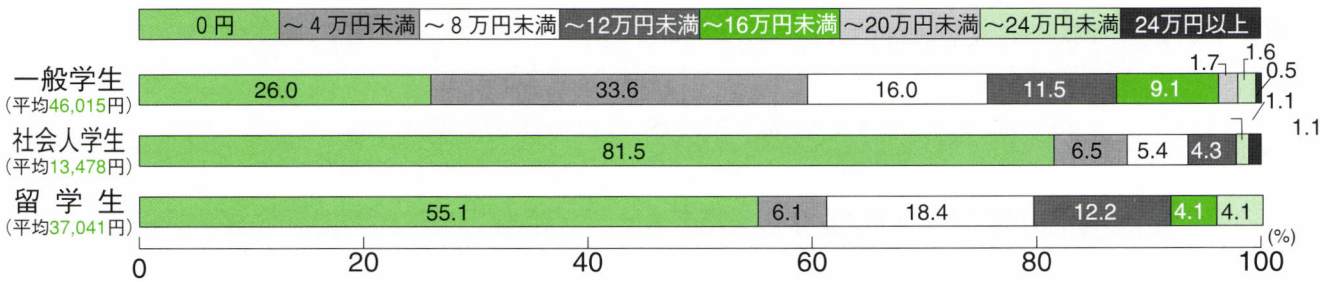
※『私立大学 学生生活白書2003』（㈳日本私立大学連盟発行）から抜粋。

仕送り・小遣いの特徴は？

POINT 月平均**4万5千円**。別居でも仕送りなしが**約2割**

全体では月平均の仕送り・小遣いが44,921円です。一般学生は4人に3人は仕送り・小遣いをもらっています。社会人学生はさすがに仕送り・小遣いをもらう人が少数ですが、それでも2割の人はもらっています。留学生も仕送りがない人が半数以上ですから、学生生活を維持するのに苦労する留学生が多いことが分かります。

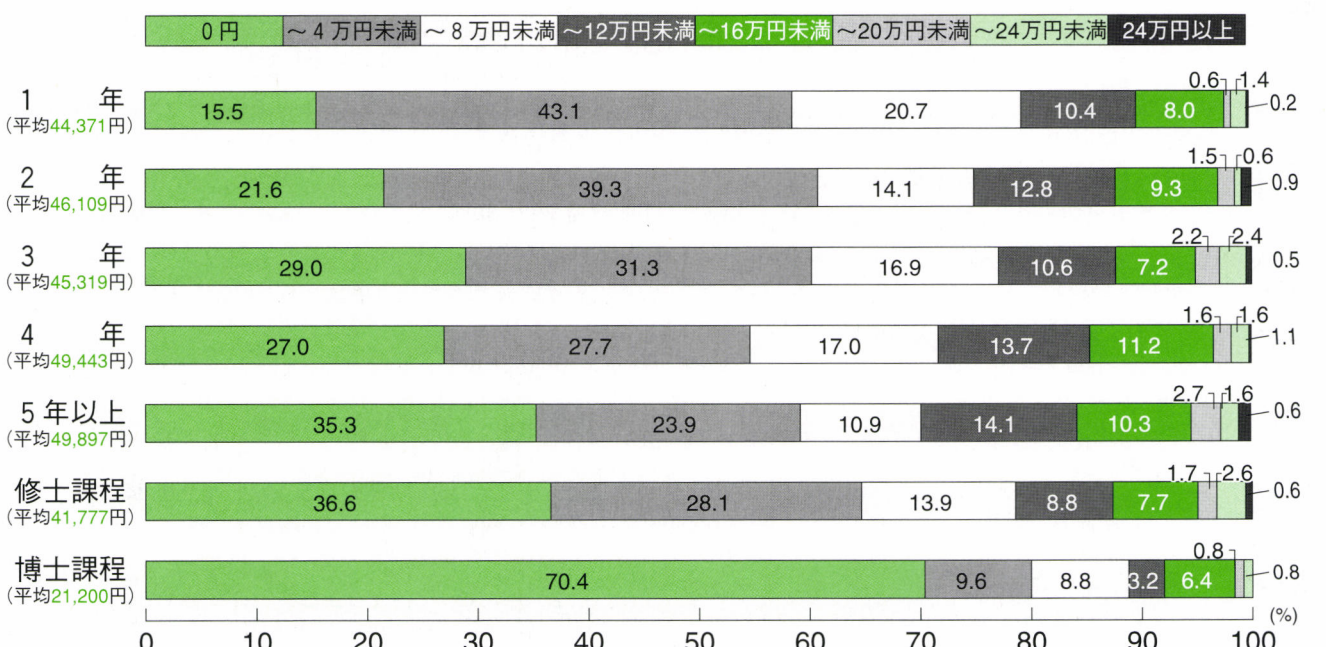
月平均仕送り・小遣い（学生種類別）



学部生では仕送り・小遣いの平均値に学年による違いはありません。ただし仕送り・小遣いがない学生は、学年が上がるにつれ増える傾向が見られます。修士課程の大学院学生は6割以上が仕送り・小遣いをもらっていますが、博士課程になると3割に減少します。学問をしながら自立の道に踏み出す様子がうかがえます。

+α 自宅学生は20,349円、自宅外学生は76,773円と5万円以上の開きがあります。

月平均仕送り・小遣い（学年別）



はみだし情報 自宅外学生でも、仕送り・小遣いがない人が約2割いました。豊かな社会になったとはいえ、アルバイトで生計を維持しながら勉強に励んでいる学生がいます。

多いのは、文系の高学年
理系の学生は質素な生活

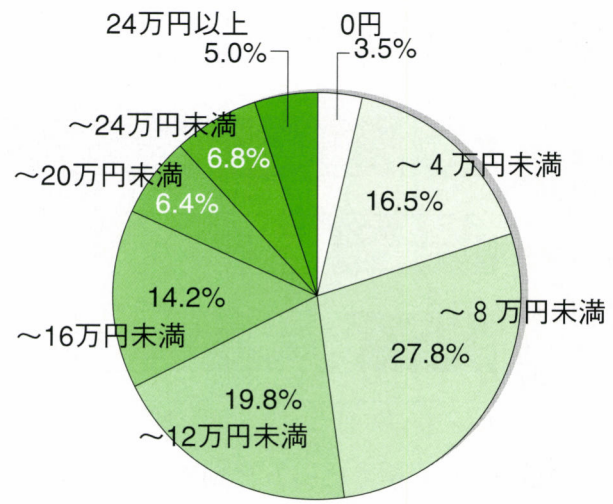
POINT 月平均収入　1年生：約**7万**円、　4年生：約**12万**円
文系：約**11万**円、　理系：約**8万5千**円

月平均収入は102,979円、半数以上が8万円以上の収入を得ています。これも学年が上がるにつれて増える傾向が顕著に現れており、1年生では約7万円ですが、4年生になると約12万円になり、実に5万円の開きが出ています。アルバイト収入の増加が大きいのですが、それ以外の収入源も出てくるようです。

文系は108,470円、理系は83,298円で約2万5千円の開きがあります。理系の学生はアルバイト収入が少ないだけでなく、仕送り・小遣いも少ない傾向があります（約8千円）。理系の学生は文系より質素な学生生活を送っているといえます。

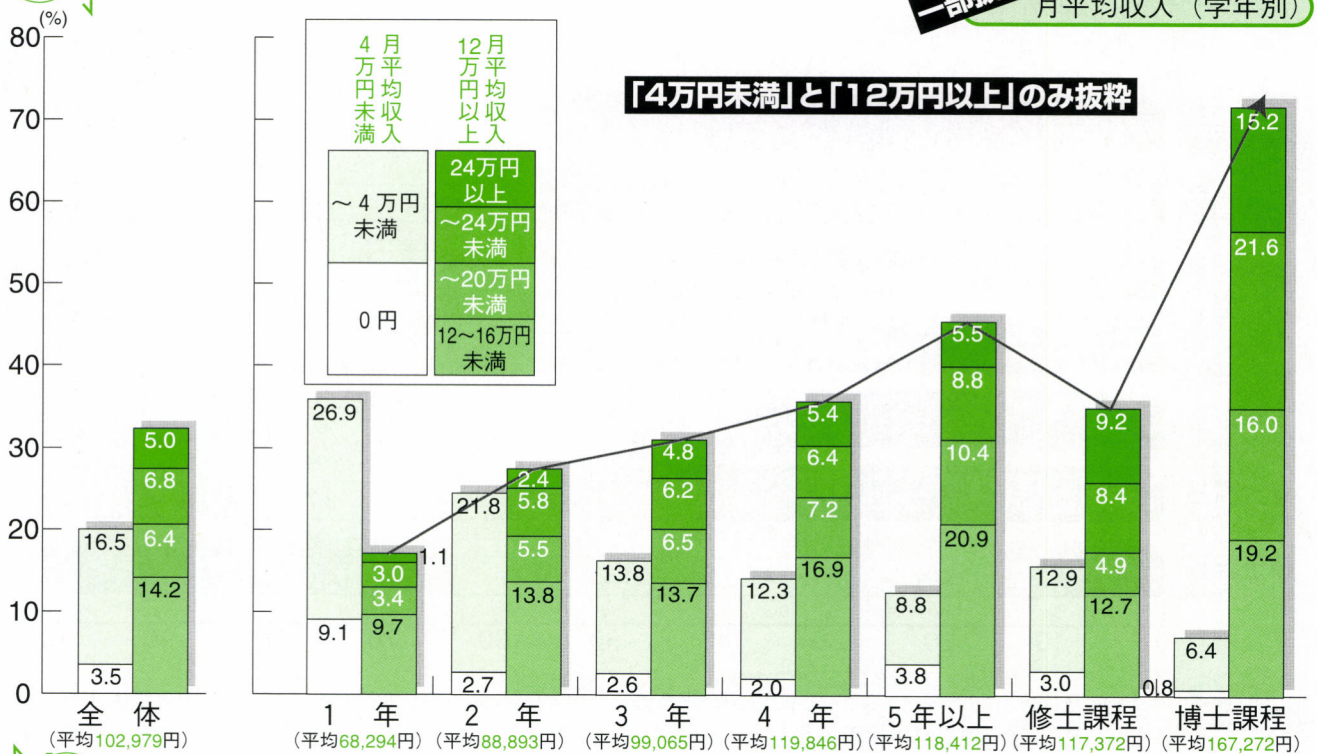
月平均収入

平均102,979円

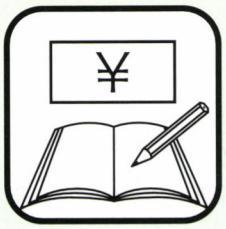


一部抜粋　月平均収入（学年別）

「4万円未満」と「12万円以上」のみ抜粋



自宅学生の場合は71,185円、自宅外学生の場合は144,770円でほぼ2倍の開きがありました。

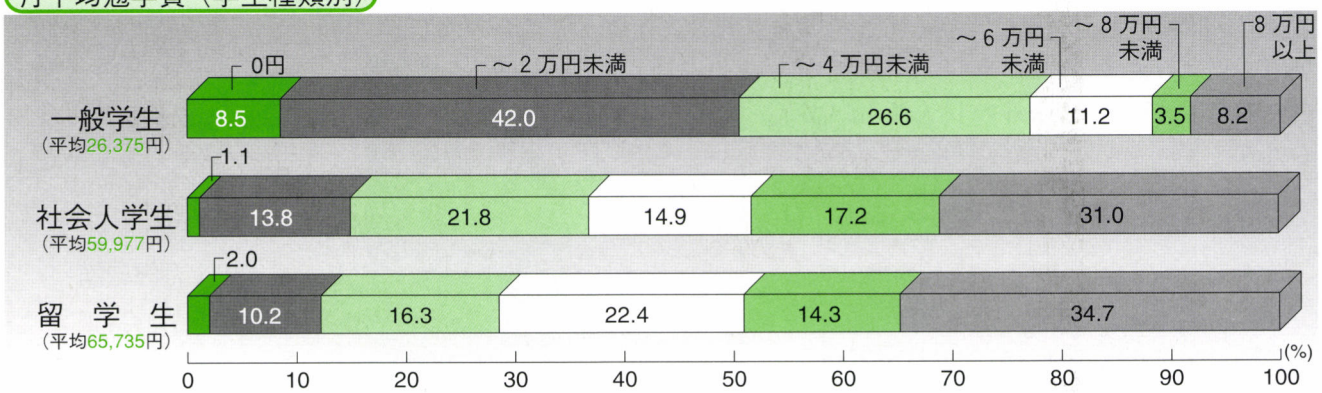


最も勉強するのは留学生？

POINT 一般学生の勉学費は社会人学生や留学生の**半額**

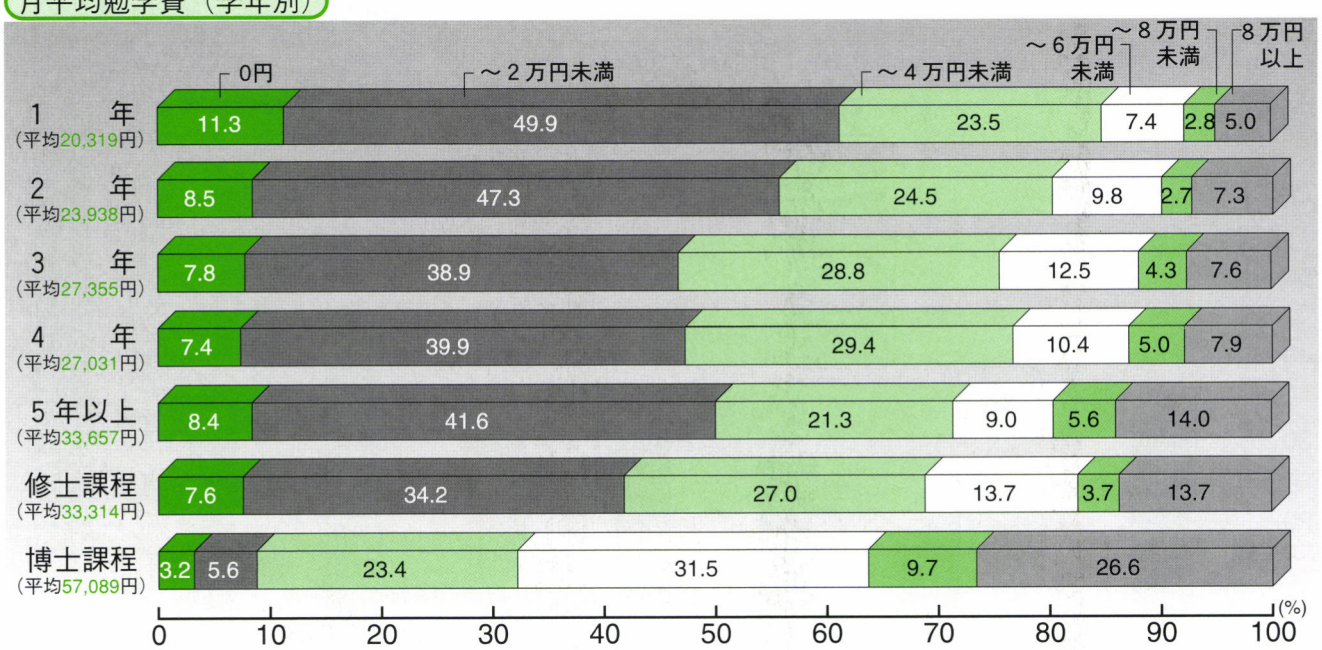
全体では勉学費に月平均27,964円を支出していました。一般学生はこれとほぼ同額の勉学費を支出しています。一方で、社会人学生や留学生はこの倍額以上の勉学費を支出しています。社会人学生や留学生の向学心の強さがうかがえます。

月平均勉学費（学生種類別）



勉学費は学年が上がるにつれて増えていきます。3年生と4年生の勉学費はほぼ同じです。3年生になると専門的な学習をするのに経費が必要になるのかもしれません。大学院学生の勉学費が学部生より多いのは当然です。とりわけ博士課程の学生の勉学費は学部生の2倍以上です。

月平均勉学費（学年別）



はみだし情報

文系と理系を比較すると、文系は29,050円、理系は24,072円と、文系の方が勉学費を多く使っていました。また、自宅学生と自宅外学生では、自宅学生は23,639円、自宅外学生は33,638円と、自宅外学生の勉学費が高いことが分かります。一人で大学生活をしようとする意欲は、勉強への意欲にもつながるのでしょうか。